



亀っ子だより

第23号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2020年7月7日

朝、兄弟のやり取り

朝、横断歩道に立っていると一つの通学班がやってきました。後ろの、高学年の子が前の低学年の子に「靴下を落としたよ」と言って靴下を渡そうとしました。低学年の子は「ぼくのじゃない」と言って受け取りませんでした。私が「ぼくは、落としたところを見たの？」と高学年の子に聞くと「靴下を落とした」と繰り返し低学年の子に渡そうとしました。「お兄ちゃん、ぼくのじゃない」と低学年の子は、繰り返し靴下を拒みました。この会話で二人が兄弟であることが分かりました。弟が靴下を受け取らないので、お兄ちゃんは仕方なく靴下を自分のポケットに入れ、通学班は出発しました。「お兄ちゃんありがとう」と私は声をかけました。優しいお兄ちゃんだと感心しました。

ヒマワリの支柱

6月も終わりに近づいた頃、1年生の教室の前のヒマワリが、日に日に大きくなっていました。ある朝見ると、ヒマワリの花が大きくなりすぎ、今にも茎が折れてしまいそうなものがありました。(そのことを発見しましたが、私は何もませんでした。後悔。)ところが次の日の朝、すべてのヒマワリの茎が折れないようにと支柱を立てられていました。地域の人が立ててくれたものと思います。本当に感謝、感謝です。地域の人に支えられながら学校はあるのだとつくづく思いました。支柱を立ててくださった地域の人に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



「願い事」いいですね

- ・字がじょうずになりますように
- ・クロールがじょうずになりますように
- ・虫がさわれるようになりますように
- ・おいしゃさんになれますように
- ・もっと友だちがふえますように
- ・コロナウイルスがおさまり、東京オリンピックができますように
- ・サッカーをがんばりたい
- ・足がはやくなりますように
- ・かめとお友だちになれますように



七夕を前に、1・2年生、ひまたん学級の教室の前にササ飾りが置かれています。子どもたちは思い思いの願い事を書いて、七夕様に届きますようにと思いを巡らしていることと思います。私も願い事を書いて飾らせてもらおうかと思ったのですが、願い事が思いつかずあきらめました。願い事が書ける子どもたちの気持ち、素直さ、とっても美しいと思います。その気持ちを周りの大人が大切にしていかなければと思いました。「早く大きくなあれ」「早く大きくなあれ」と言わずに…。

交通教室を見て感じること

7月2日（木）ひまわり・たんぽぽ学級と1年生とが交通安全教室を行いました。交通指導員さんから横断歩道の渡り方や傘の持ち方を教わった後、西門を出てアスレチック横の道路から正門までのコースを一人で歩きました。

私は、西門から出たところの横断歩道で子どもたちの様子を見ながら写真を撮っていました。一人で歩くことと指導員さんから直接指導されることとが重なって、子どもたちはとても緊張している様子でした。横断歩道を渡り終えた後も、手を挙げたまま歩いている子もいたほどです。6月中頃から1年生だけの班で下校していますが、この日の緊張感は日頃、道路を歩くのとは全く違うもののように感じました。子どもたちの様子を見て思うことは、子どもは緊張していると、持っている力をなかなか発揮できないということです。子ども（特に小学生）の力を発揮させるためには、安心させることだと改めて思いました。授業でも、「これでいいのかな」「こんなことを言ったら笑われないかな」と不安な気持ちがあるうちは、子どもが力一杯力を伸ばすことはできないものです。でも、大人はそれをしてしまいがちです。気をつけなければならぬなと思いました。



朝、道を歩いている人の一言

6月の朝、道を歩いていると、いつもすれ違うおじさんが「やっぱり子どもの声がするといいね。元気になる」と声をかけてくれました。子どもたちの声が、地域の人たちの元気になっているのです。すれ違う瞬間の出来事でしたが、私にとってとてもうれしいお話でした。これからも、「地域の人たちにもっと挨拶をしよう」と子どもたちに声をかけていきたいと思いました。

♣ 子育てアラカルト ♣

【目先のことにとらわれなくて、もっと長い目で子どもを育てるようにします Part1】

【心に刻む言葉】

- ・不安なのは、誰かになんとかしてもらおうと思っているから！
- ・この世に起こることはすべて、いいことにも悪いことにも深い意味がある。大切なのは、その出来事から学ぶこと。

あなたもきっとそうだったように、子どもはできることよりできないことのほうが多いものだ。そして、今できないことも、永久にできないわけではない。

良くも悪くも子どもは成長していく。周りの大人の愛情と期待と声かけに呼応して・・・。

今の温かい対応が何十年か先にきっと生きてくることだろう。

もう一度言う。今できないだけであって、永久にできないわけではないのだ。どういう目で子どもを見ていくかが、大人に問われているのだ。

（ある教育者のひとり言 より）